アカシア　NO.11

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連市のホームページより

夏徳仁は欧力士(中国)有限会社の理事長の井上亮を会見する

昨日の午後,大連海昌集団有限会社と日本欧力士(中国)有限会社はシャングリラ大飯店で共に《資本の戦略の協力協議》を署名して,欧力士集団の将来は大連を本部にして,中国で一連の戦略投資発展計画を展開します。大連東港区で本部の基地を設立し、海昌集団と共に旅行総合プロジェクトを発展して、高新園区で日本ソフトウェア産業園を開発し、日本企業に向けの投資ファンドを設立し、金融株権投資と金融創新業務を展開し,3 年の時間で中国での投資総額が3000 億円を超えるの目標を実現します。

市委員会書記の夏徳仁,市委員会常務委員、副市長の戴玉林,市人民代表大会常務委員会の副主任の鞠文華,開発区管理委員会主任の張世坤,市長の補佐の劉岩と欧力士集団の専務の副総裁兼中国区理事長の井上亮、大連海昌集団の指導者などは調印式に出席しました。

大連市の外資系投資の誘致として、近年ではインテルに次ぐ大きな成功案件が発表された。あのオリックスが、中国の本部を大連に置くことが決定した。上海・北京ではなく大連ということで大きな話題となった。

オリックスが大連に目を向けたきっかけは、夏季ダボス会議に宮内オリックス会長が出席し、大連の街並みを気に入ったことだそうだ。その後、大連市が様々な形で誘致を行い、大連市にオリックスの中国本部ビルを建てるところまでに至った。

大連市が今まで取り組んできた、美しい街づくり、観光都市づくり、コンベンションの誘致、情報ハイテク都市づくりなどのまちづくりが、2 重 3 重にもリンクして、中国の都市間誘致競争に打ち勝ったことになる。

オリックスは、大連市に中国本部を置き、大連のハイテク園区で日本ソフトウエア産業パークの開発を行うほか、様々な投資事業を行う。

その投資事業の中でも、大連市の海昌集団に対しては観光事業などへの投資を進出決定と同時に合意した。海昌集団は、大連市に本社を置く企業グループ。その董事長・曲乃傑氏は、昨年の中国版フォーブス富豪ランクで 114 位に位置づけられた。この企業グループの中核事業は、石油貿易、海運、不動産、観光事業。大連の代表的な観光名所の老虎灘極地館（水族館）、金石灘発現王国（テーマーパーク）も経営している。また、水族館は現在ある青島のほか成都、重慶、武漢、天津にも建設計画がある。

オリックスはリース業だけでなく、日本で公園や水族館、温泉施設、養老院、娯楽施設、ゴルフ場などの開発・経営も手掛けていることもあり、提携後、海昌集団は、オリックスの資金とノウハウを取り入れながら、現在の開発計画を基礎に、中国の各観光都市や中核都市に観光事業を展開していく構想だ。

オリックス本部の誘致により、国際金融センターや国際観光都市、ハイテク産業集積地などを目指す大連市の政策も大きく前進すると期待しているだろう。今までは、外資誘致といえば製造業や BPO のソフトウエア会社が目を引いた。今後は、オリックス効果によって、世界中から、高度な金融・サービス業が誘致できるかどうか注目していきたい。